

平成30年度 総括・分担研究報告書

厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）

Perry病診断基準の確立
(H28 難治等（難） - 一般 - 016)

平成30年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 坪井 義夫

2019年 5月

研究報告書目次

目 次

I . 総括研究報告	
Perry病診断基準の確立	----- 3
研究代表者：坪井 義夫 福岡大学医学部脳神経内科学・教授	
II . 分担研究報告	
1 . 軸索輸送に注目したPerry症候群とタウオパチーの関連についての検討-	5
研究分担者：服部 信孝 順天堂大学医学部神経学 教授	
2 . 診断基準の作成と新規家系の発掘	----- 7
研究分担者：藤岡 伸助 福岡大学医学部脳神経内科学 講師	
3 . Perry病診断基準の確立	----- 8
研究分担者：三嶋 崇靖 福岡大学医学部脳神経内科学 助教	
III . 研究成果の刊行に関する一覧表	----- 9

Perry 病診断基準の確立

研究代表者 坪井 義夫 福岡大学医学部脳神経内科 教授

研究要旨 Perry病診断基準作成のため、国内、国外のPerry家系の調査を実施し、Mayo Clinicとの国際共同研究データおよび過去の家系報告の文献データを含めて遺伝子診断（DNTN1）が確定した87例の解析から国際診断基準の作成を行い英文誌に掲載した。新規の病理学的検討を加えて、重症度分類や診療ガイドラインの作成を継続する。

研究の目的：

Perry 症候群はパーキンソニズム、うつ、体重減少、中枢性低換気をきたす遺伝性疾患で、1975年にカナダのPerryにより報告された。その後複数の臨床的に類似した家系が報告された。2009年に共同研究グループにより DCTN1 が原因遺伝子として同定され、病理学的には中脳黒質を含んだ神経細胞内に TDP-43 蛋白凝集体がみられることが判明した。これまで 19 家系が報告され、臨床症状は同一家系内でも時に表現型や経過が異なることがある。また DCTN1 遺伝子変異を有し、進行性核上性麻痺類似の臨床症状を呈する症例が報告されるなど、表現の多様性が判明した。そんな中で国際診断基準作成の必要性が求められてきた。今回の研究により、臨床症状がオーバーラップする孤発性パーキンソン病や進行性核上性麻痺、多系統萎縮症などの類縁疾患の鑑別や遺伝子診断が必要な症例の抽出も可能となる。この疾患はうつ、体重減少、呼吸不全をきたすことがあり、脳神経内科のみならず広くこの疾患を啓蒙することで治療のタイミングを逸しないようにすることが重要である。したがって研究目的はこの疾患の重症度の策定を行い、診療ガイドラインの策定をめざす。

研究方法：

これまでの日本家系を含めた87例のPerry症候群患者の臨床症状から主要症候、指示的症候と遺伝子情報を合わせた診断基準が完成し、欧文誌に投稿した。この掲載により新たな家系の報告を促す可能性がある。今年度はすでにフォローしている家系調査（FUK-1、FUK-4、OMT、MZK）を継続し、日本の新規家系の発掘を行う。新規発症者についてパーキンソニズム、うつ、体重減少、中枢性低換気の4徴候やその他精神症状等の出現頻度、時期、死因や罹病期間、治療反応性を検討する。臨床症状は定量的評価を用い詳細に検討した。剖検例は中脳黒質、青斑核や腹側被蓋野の神経脱落や神経細胞内のTDP-43蛋

白凝集体の有無について検討する。

（倫理面への配慮）

研究実施時には、対象患者および患者家族に対して十分に説明を行い、理解を得た上で同意された患者にのみ本研究を実施する。本研究に対して同意を得る場合は人権保護の立場から慎重に検討する。

研究結果：

これまでフォローしている家系調査（FUK-1、FUK-4、OMT、MZK）の自然歴調査を継続した。国内のPerry 症候群疑いの患者のスクリーニング検査を行ったが新規の DCTN1 遺伝子変異を有した患者は発見できなかった。経過を観察している2症例（FUK-1、OMT 家系）フォローの臨床評価を行った。OMT 家系から長期フォロー患者の剖検病理報告を行った。この中では従来知られている TDP-43 陽性封入体のほかにリン酸化タウの凝集がみられている。Perry 病とタウ病理との関連は今後の課題である。

考察：

国際臨床診断基準に照らし合わせて日本におけるPerry 病の疫学を詳細に検討した。

結論：

我々の提唱した国際診断基準を基礎にさらなる症例の蓄積と重症度と診療ガイドラインを確立することが必要である。

[参考文献]

Perry TL, et al. Arch Neurol. 1975
Farrer MJ, et al. Nat Genet. 2009
Wider C, et al. Parkinsonism Relat Disord. 2009 Caroppo P, et al. JAMA Neurol. 2014
Mishima T, et al. Perry Syndrome: A Distinctive Type of TDP-43 proteinopathy. 2017

研究危険情報：

なし

研究発表

- ・論文発表
別紙 4 研究成果の刊行に関する一覧表参照
- ・学会発表
なし

知的財産権の出願・取得状況：

- ・特許取得
なし
- ・実用新案登録
なし
- ・その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業））

分担研究報告書

軸索輸送に注目した Perry 症候群とタウオパチーの関連についての検討

研究分担者： 服部 信孝 順天堂大学医学部神経学 教授

研究要旨 本分担研究では、タウ遺伝子変異の患者がPerry症候群と類似した症状を呈したことに注目した。シナプス機能や神経軸索輸送を可視化できる有用な実験動物としてショウジョウバエを用いて、タウ蛋白を発現する病因変異導入系統を樹立した。Perry症候群モデルのハエでは内在性TDP-43を減少させることで軸索輸送が改善することが報告されたが、タウを発現させたショウジョウバエモデルにおいても同様の現象が観察できるかを確認した。タウ発現モデルでは生存期間短縮や運動機能低下が見られ、タウオパチーのモデルとしての有用性が確認された。また、内在性TDP-43を減少させることで軸索の逆行性輸送と運動機能が軽度改善することを発見した。

研究の目的：

Perry 症候群は致死的な難病でありながら、その病態メカニズムは不明な点が多い。Perry 症候群と同様の軸索輸送障害を呈するタウオパチーとの関連を検討することで病態解明と治療法開発を目的とする。

研究方法：

タウ蛋白を軸索に発現するショウジョウバエモデル(タウモデル)を作成し、その行動解析や分子学的解析を行った。全長タウと、タウオパチーで見られるタウ断片を発現するタウモデルを作成した。これに内在性TDP-43遺伝子を1コピー減らしたショウジョウバエを掛け合わせることで、タウモデルで内在性TDP-43を減少させた新規モデルを作成した。その他、タウ蛋白をグリア細胞に発現させるモデルも作成した。これらの成虫を用いて生存期間と運動機能の測定や、複眼や腹部シナプスボタンの観察を行った。また3齢幼虫で神経軸索内の有芯小胞の輸送やシナプスボタンの肥大化の有無などを確認した。

(倫理面への配慮)

遺伝子組み換え実験については順天堂大学倫理委員会より承認を得た。

研究結果：

1) タウ蛋白を運動神経に発現させたショウジョウバエモデルでは加齢による運動機能低下が認められた。また成虫の腹部シナプスボタンの変性を認めた(図1)。

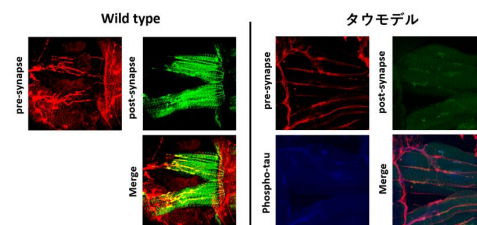


図1 運動神経に断片化タウ蛋白を発現させたハエの腹部シナプスボタンには変性が起る。

2) タウ蛋白をグリア細胞に発現させたモデルでは複眼にリン酸化タウの蓄積を認めた(図2)。

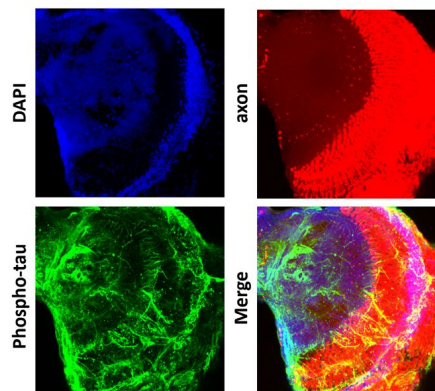


図2 グリア細胞にタウ蛋白(ON4R)を発現させたハエの複眼ではリン酸化タウが蓄積する。

3) 全長タウ (0N4R) を発現させたモデルに TDP-43 を遺伝子組み換えにより減少させることで、加齢による運動機能低下が軽度改善するがわかった (図 3A)。さらに、分子学的にはドパミントランスポーターである有芯小胞の軸索輸送が障害されていることを発見し、TDP-43 を減少させると逆行性輸送が軽度改善することを確認した (図 3B)。

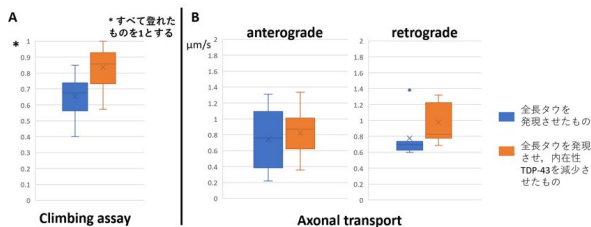


図3 運動神経にタウ蛋白を発現させたハエの内在性TDP-43発現量を減少させると、運動機能 (A) と、軸索輸送 (B) が軽度改善する。

考察：

進行性核上性麻痺や皮質基底核変性症などのタウオパチーではタウ蛋白のみならず TDP-43 の合併病理が多いことが報告されている。また Perry 症候群においてもタウ蛋白が蓄積する症例が報告されている。共通の病態として軸索輸送障害が考えられるが、Perry 症候群での報告と同様に、タウモデルにおいても内在性 TDP-43 を減少させることで軸索輸送が軽度改善する可能性が示唆された。

結論：

タウオパチーのショウジョウバエモデルにおいて軸索輸送や運動機能が障害されるが、TDP-43 を減少させる事で症状が軽度改善する事を明らかにした。これらの結果よりタウオパチーと Perry 症候群に共通する病態メカニズムが存在する可能性が示唆された。今後は、他のタウのアイソフォームでの再現性を検討し、ヒトにおけるタウオパチーと Perry 症候群に共通する神経変性機構を明らかにする事で病態解明を目指す。

研究危険情報：

分担研究者報告書のため記載の必要なし。

研究発表

- ・論文発表
- 未発表
- ・学会発表

1) Daisuke T, Masashi T, Taku H, Nobutaka H: Glial three repeat tau accumulation in progressive supranuclear palsy. International

Congress of Neuropathology, Tokyo, Sep 24, 2018.

2) Daisuke T, Taku H, Koji K, Ayami O, Masaaki H, Shigeki A, Notutaka H: Neuromelanin Imaging and Midbrain Volumetry In Progressive Supranuclear Palsy and Parkinson's disease. International congress of Parkinson's disease and movement disorders, HongKong, Oct 6, 2018.

知的財産権の出願・取得状況：

- ・特許取得
なし
- ・実用新案登録
なし
- ・その他
なし

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
 分担研究報告書

診断基準の作成と新規家系の発掘

研究分担者：藤岡 伸助 福岡大学・医学部脳神経内科学

研究要旨 Perry症候群の診断基準作成のために調査を継続している家系とMayo Clinicとの国際共同研究データおよび過去の家系報告の文献的考察から、遺伝子診断（DNTN1）が確定した87例の臨床症状、画像、生理検査、病理を詳細に検討し、臨床表現型の特徴を解析した。そのデータをもとに、昨年診断基準を作成した。原因遺伝子も判明し、診断基準が確立した今、Perry症候群の臨床診断率は向上すると思われ、Perry病診断のための遺伝子検査依頼も全国からいただいている。そこでDCTN1遺伝子異常があった際には、現地に出向き、詳細な臨床所見を採取し、臨床データの蓄積を行う。そのことにより、より詳細なPerry症候群の臨床像を明らかにする

研究の目的：

診断基準の作成と新規家系を発掘することを主の目標とする。

研究方法：

（倫理面への配慮）

研究実施時には、対象患者および患者家族に対して十分に説明を行い、理解を得た上で同意された患者にのみ本研究を実施する。本研究に対して同意を得る場合は人権保護の立場から慎重に検討する。

研究結果：

臨床所見、遺伝子検査、病理所見の結果を含めた診断基準を作成した。

考察：

ペリー症候群では、世界では初めてとなる診断基準を国際共同研究のもと作成することができた。作成した国際診断基準を用い、Perry症候群と類似疾患を比較し、診断基準の精度を評価する必要がある。

結論：

より多くの症例の情報蓄積が必要であり、引き続き新規家系の発掘が必要である。

研究危険情報：

分担研究者報告書のため記載の必要なし。

研究発表

- ・論文発表
別紙 4 研究成果の刊行に関する一覧表参照
- ・学会発表
なし

知的財産権の出願・取得状況：

- ・特許取得
なし
- ・実用新案登録
なし
- ・その他
なし

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
 分担研究報告書

Perry 病診断基準の確立

研究分担者：三嶋 崇靖 福岡大学・医学部脳神経内科学

研究要旨 Perry病はパーキンソニズム、うつ・アパシー、原因不明の体重減少、中枢性呼吸障害の4徴候を特徴とする常染色体優性遺伝の神経変性疾患である。我々は、前年度までに国際共同研究によりPerry病の国際診断基準の確立に至った。本年度、我々は、Perry病におけるMIBG心筋シンチグラフィー取り込み低下の頻度について検討した。

研究の目的：

Perry 症候群はパーキンソニズム、うつ・アパシー、原因不明の体重減少、中枢性呼吸障害の 4 徴候を特徴とする常染色体優性遺伝の神経変性疾患である。我々は、Perry 症候群から Perry 病への名称変更を提唱した。本研究で未発表家系の報告、レジストリー研究、診療ガイドライン作成を目指す。

研究方法：

MIBG心筋シンチグラフィーはレビー小体病で高頻度に取り込み低下を認め、Lewy小体病の診断マーカーと考えられるが、Perry病での取り込み低下の報告もある。我々はPerry病におけるMIBG心筋シンチグラフィー取り込み低下の頻度や低下症例の臨床症状を明らかにするため、既報告および本邦の未報告症例について検討した。現在、診療ガイドライン作成にむけ、レジストリー構築の準備を行っている。

（倫理面への配慮）

研究実施時には、対象患者および患者家族に対して十分に説明を行い、理解を得た上で同意された患者にのみ本研究を実施する。本研究に対して同意を得る場合は人権保護の立場から慎重に検討する。

研究結果：

我々は、Perry 病で MIBG 心筋シンチグラフィー取り込み低下の頻度について解析し、同疾患の自律神経系障害の生物学的マーカーになりうるか検討を行っている。更に我々は、Perry 病の認知度向上のため、レビュー論文を作成した。

考察：

国際診断基準の確立により、Perry 病の早期診断が可

能となった。また、本研究により臨床症状がオーバーラップする孤発性パーキンソン病や進行性核上性麻痺、多系統萎縮症などの類縁疾患の症例の抽出も可能となり、類縁疾患の病態解明の一助ともなる。

結論：

Perry 病で MIBG 心筋シンチグラフィー取り込み低下の頻度について検討した。

研究危険情報：

分担研究者報告書のため記載の必要なし。

研究発表

- ・論文発表
別紙 4 研究成果の刊行に関する一覧表参照
- ・学会発表
なし

知的財産権の出願・取得状況：

- ・特許取得
なし
- ・実用新案登録
なし
- ・その他
なし

別紙 4

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ishikawa KI, Saiki S, Furuya N, Imamichi Y, Tsuboi Y, Hattori N.	p150glued deficiency impairs effective fusion between autophagosomes and lysosomes due to their redistribution to the cell periphery.	Neurosci Lett.	690	181-187	2018
Mishima T, Fujioka S, Fukae J, Yuasa-Kawada J, Tsuboi Y.	Modeling Parkinson's Disease and Atypical Parkinsonian Syndromes Using Induced Pluripotent Stem Cells.	Int J Mol Sci.	19	3870	2018
Mishima T, Fujioka S, Tomiyama H, Yabe I, Kurisaki R, Fujii N, Neshige R, Ross OA, Farrer MJ, Dickson DW, Wszolek ZK, Hattori N, Tsuboi Y	Establishing diagnostic criteria for Perry syndrome.	J Neurol Neurosurg Psychiatry	89	482-487	2018
Honda H, Sasagasako N, Shen C, Shijo M, Hamasaki H, Suzuki SO, Tsuboi Y, Fujii N, Iwaki T.	DCTN1 F52L mutation: a case of Perry syndrome with progressive supranuclear palsy-like tauopathy.	Parkinsonism and Related Disorders	51	105-110	2018

学会発表

発表者氏名	発表タイトル名	学会名	発表日
Daisuke T, Masashi T, Taku H, Nobutaka H	Glial three repeat tau accumulation in progressive supranuclear palsy.	International Congress of Neuropathology, Tokyo,	Sep 24, 2018
Daisuke T, Taku H, Koji K, Ayami O, Masaaki H, Shigeki A, Notutaka H	Neuromelanin Imaging and Midbrain Volumetry In Progressive Supranuclear Palsy and Parkinson's disease.	International congress of Parkinson's disease and movement disorders, HongKong	Oct 6, 2018.
三嶋崇靖、藤岡伸助、富山弘幸、矢部一郎、栗崎玲一、藤井直樹、音成龍司、Ross OA、Farrer MJ、Dickson DW、Wszolek ZK、服部信孝、坪井義夫	Perry症候群国際診断基準の確立	第59回日本神経学会、札幌	5月23日、2018 .
三嶋崇靖、弟子丸眞実、渡辺拓也、窪田香織、河田真理子、河田純一、高崎浩太郎、上原吉就、神野尚三、岩崎克典、坪井義夫	DCTN1 G71A変異Perry症候群トランスジェニックマウスにおける行動障害	第12回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres、京都	7月5日、2018 .
Mishima T, Fujioka S, Tomiyama H, Yabe I, Kurisaki R, Fujii N, Neshige R, Ross OA, Farrer MJ, Dickson DW, Wszolek ZK, Hattori N, Tsuboi Y.	Proposal of international diagnostic criteria and a new disease concept.	International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, Hong Kong,	October 6, 2018

国立保健医療科学院長 殿

機関名 福岡大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 山口 政俊



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
2. 研究課題名 Perry 病診断基準の確立（H28－難治等（難）－一般－016）
3. 研究者名（所属部局・職名） 医学部神経内科学・教授
 （氏名・フリガナ） 坪井 義夫 ・ ツボイ ヨシオ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	福岡大学病院臨床研究審査会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	福岡大学病院臨床研究審査会	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査の場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> （有の場合はその内容：)

（留意事項） ・ 該当する口にチェックを入れること。
 ・ 分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

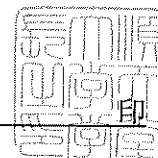
2019年4月1日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 順天堂大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 新井 一



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
2. 研究課題名 Perry 病診断基準の確立
3. 研究者名（所属部局・職名） 大学院医学研究科・教授
 （氏名・フリガナ） 服部 信孝（ハットリ ノブタカ）

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	順天堂大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	順天堂大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> （有の場合はその内容：)

（留意事項） ・該当する口にチェックを入れること。
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2019年 5月 8日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 福岡大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 山口 政俊



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
- 2. 研究課題名 Perry 病診断基準の確立（H28－難治等（難）－一般－016）
- 3. 研究者名（所属部局・職名） 医学部神経内科学・助教
 （氏名・フリガナ） 藤岡 伸助・フジオカ シンスケ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	福岡大学病院臨床研究審査会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	福岡大学病院臨床研究審査会	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 福岡大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 山口 政俊



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
2. 研究課題名 Perry 病診断基準の確立（H28－難治等（難）－一般－016）
3. 研究者名（所属部局・職名） 医学部神経内科学・助教
 （氏名・フリガナ） 三嶋 崇靖・ミシマ タカヤス

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	福岡大学病院臨床研究審査会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	福岡大学病院臨床研究審査会	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。